

やど街の駆け込み場
かりハウスより

公益財団法人鉄道弘済会
第61回社会福祉セミナー
2025年7月5日（土）講座①

NPO法人場作りネット
理事 秋山 紅葉



NPO法人 場作りネット



▼ 場作りネットは、大きく3つの活動を行っています。

長野・新潟・富山を拠点に
年間10,000件の相談対応
電話相談・SNS相談
場作りネットの心臓部

1、みみをすます

長野県上田市の
商店街にある劇場を開いた
誰でも雨風しのげる
「やどかりハウス」

街中の文化施設（映画館、
劇場、本屋）を拠点に
関係性を発生させる多様
な場作りで助かる文化を

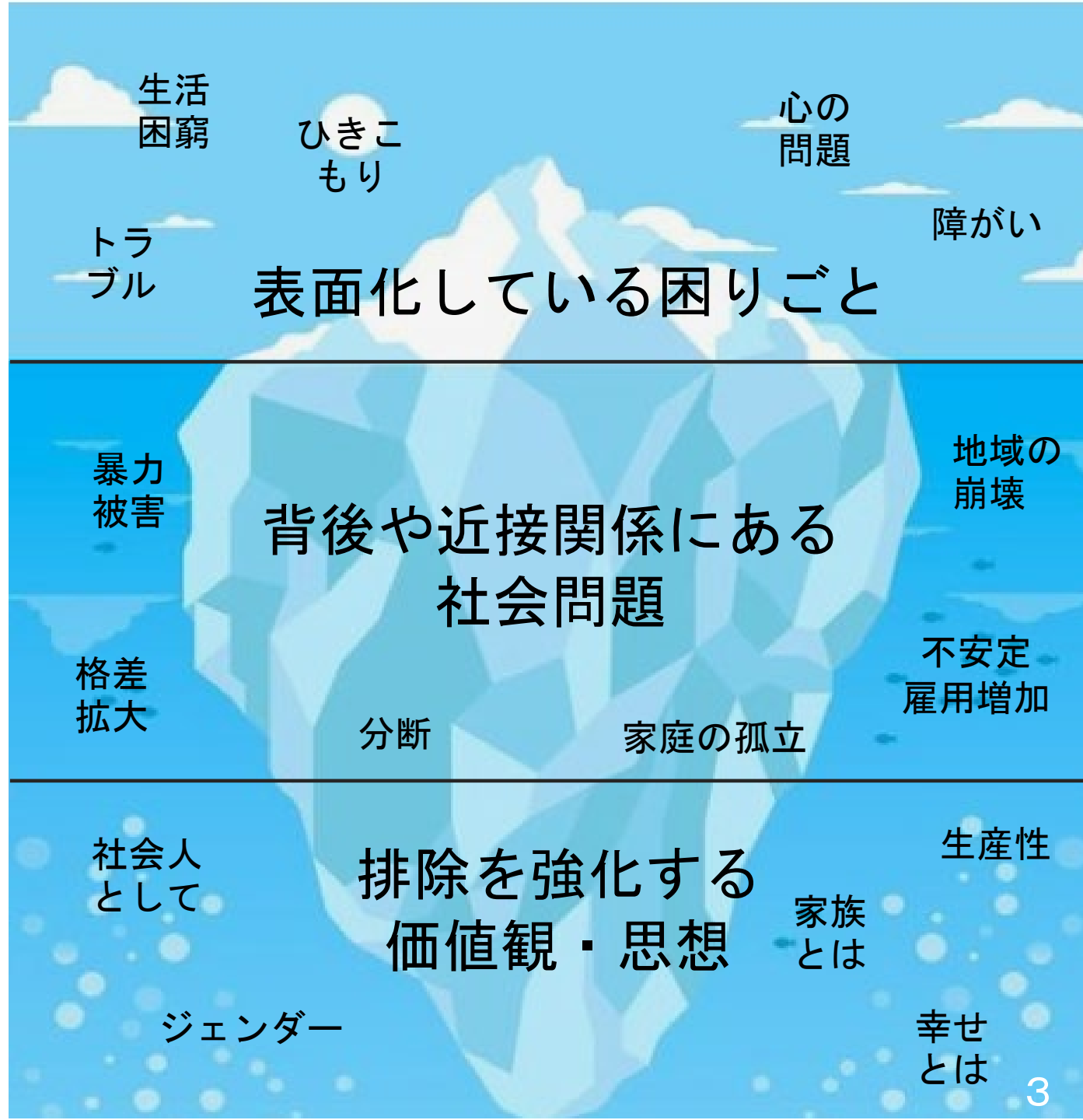
2、出会い直す

3、耕す

困りごとをヒントに
制度に依らない
場を作る

社会問題を可視化

共に変わっていく
“出会い直し”
“助かり合い”



場作りネットのあり方の特徴

2025年5月時点

- ・ 街の民間文化施設を拠点に、関係性を発生させる場作りをする
 - ・ 誰でも駆け込めて、誰でも助かり合える
 - ・ 面と向かわない 相談を開き、間に花を、戯曲を置く
 - ・ 解決を目指さず、時に目的も持たない
 - ・ 可塑的な合意を繰り返し、変化を怖れない

街の中に雨風しのぐ“のきした”を！



やどかりハウス むすびの日 のきした仕事 イロイロ倶楽部 助かり合う場

ワンコインで
泊まれる宿
LINEで気軽に
問い合わせ
生活相談できる

寄付を集めて無料
で食べる
多国籍料理
パレード・駅伝・
餅つき・盆踊り

街のいろんな場
所で仕事体験が
できる事業
街のケアが耕さ
れる

大人と子どもが
街で出会う
街中の自由な
部活動

いどばた
(発達凸凹親の会)
女性の自立の
ためのお茶会
天気の親の子の会



上田市の中心地・
海野町商店街の一角

劇場
カフェ
ゲストハウス

民間の文化施設



入り口はここ！
4年で
2918泊！

SAI
NO
TSUNO
犀の角

×



NPO法人

作りネット

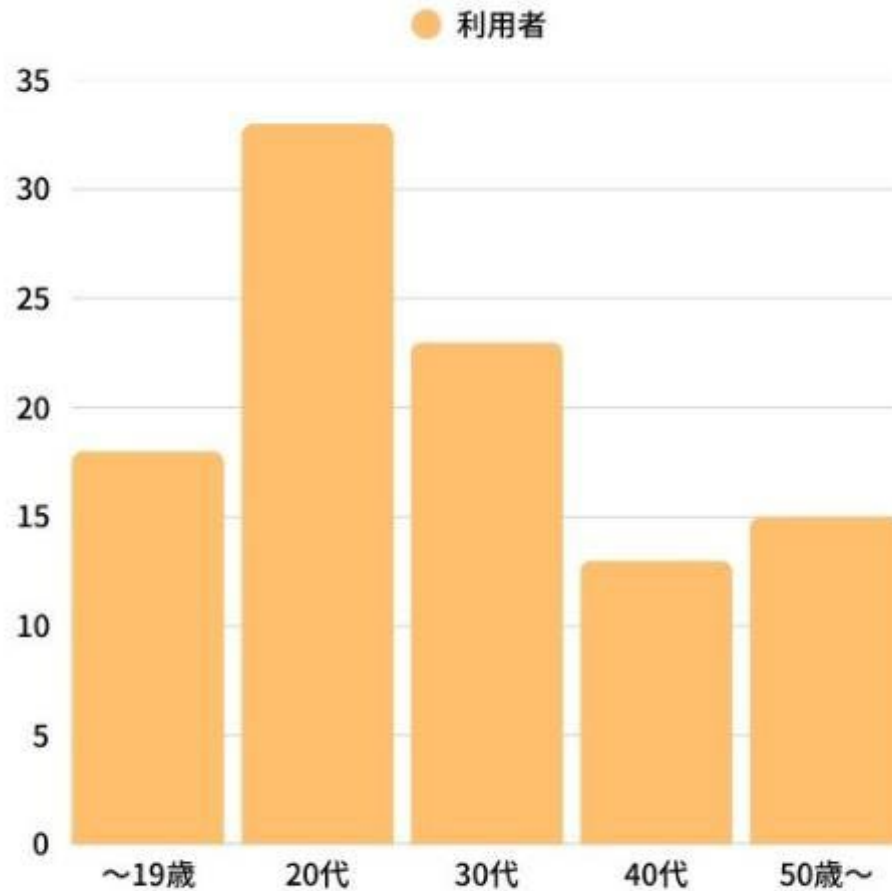
街の劇場にある 誰でも泊まれる駆け込み宿 やどかりハウス



数字で見るやどかりハウス



利用状況と理由



※2025年3月時点

宿泊数

2918泊

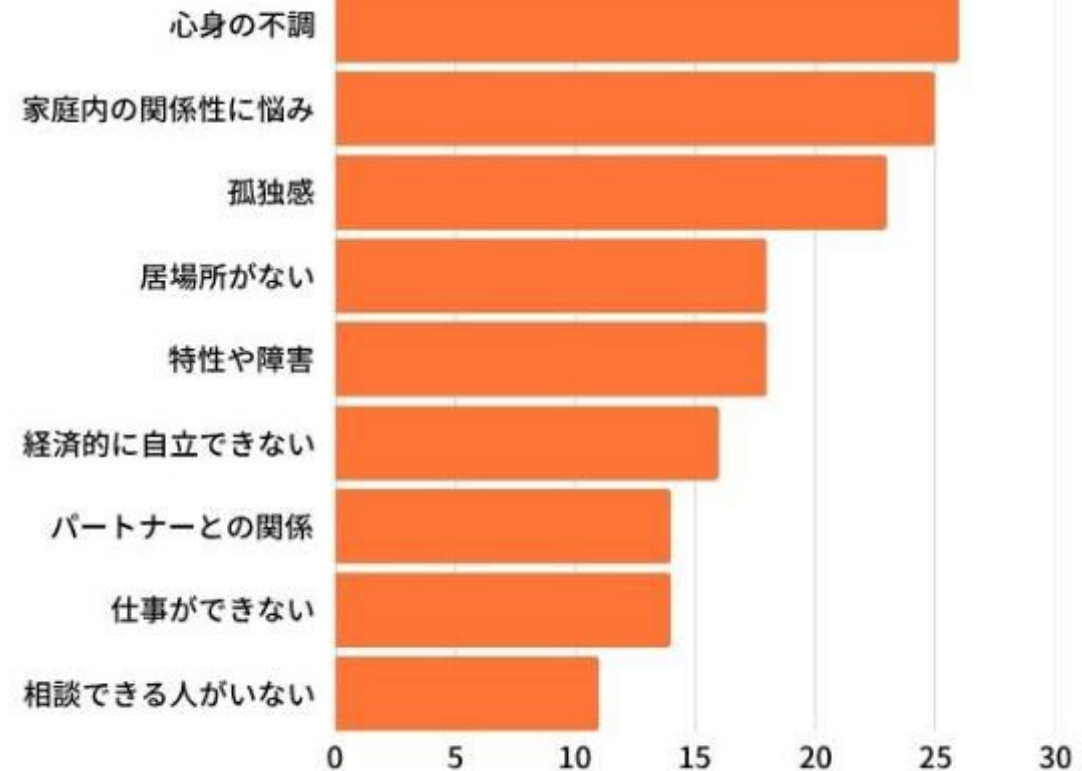
宿泊者数

800名超

登録数

1008名

LINE公式
アカウント



ありとあらゆる やどかりたち

同じような状況下の女性たちを誘ってスナックを開きたい！

祖父母や兄弟間
子からの暴力被害

チクチクしながら
心を鎮める
刺繍班へ

家庭内の抑圧
から逃れて家出した
未成年

薪割り、
引っ越しで
大活躍

占いで宿の
オーナーの
相談に乗る
ように

派遣切りに遭って
住まいを失った
20代女性

近所の不登
校児の通学
に付き添う
ように

映画館で
経験を語る
アフター
ーク登壇

発達特性のある夫
や子どもから離れ
て少し休息

車中泊17年で横
になって休みたい

ゲストハウスに宿泊中に
困窮しつなだった外国人

「優しくした責任
をとれ」と行政
に言われる

50人参加の
むすびの日
でのメイン
シェフへ

孫は劇場公
演を観て
舞台衣装の
製作が夢に

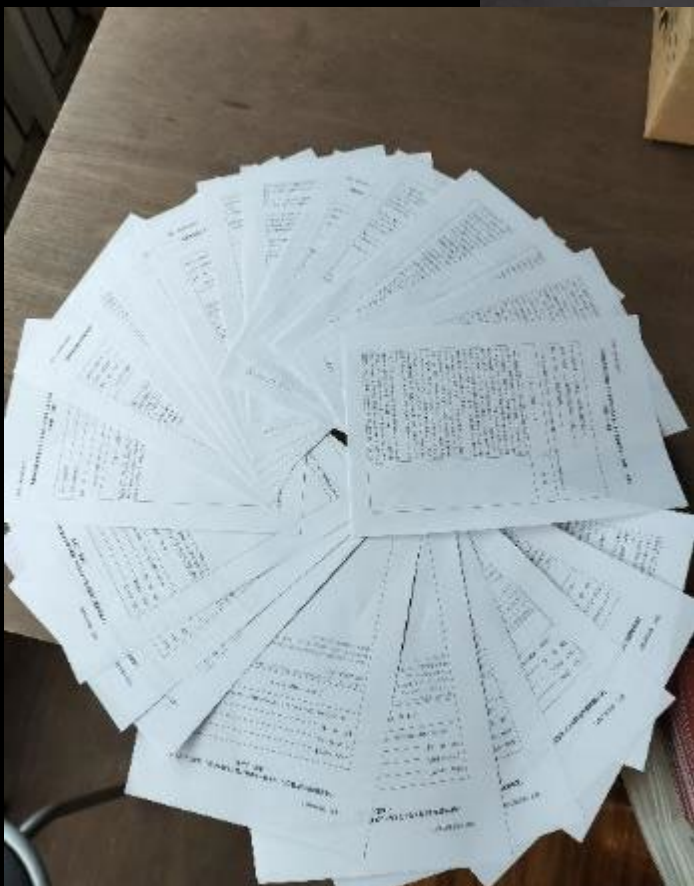
子育てに限界を感じて
のSOS

やどかりのねどこを
提供して誰かと一緒
に子育てしたい

ひきこもり・
親への暴力
友人がほしい

3世代で抑圧下の家
から離れ行き場を失
い辿り着く

女性の自立のためのお茶会



女性新法について県への
パブコメ50通

2025年、県の補助事業に！



声にならなかった経験者の歴史に耳を澄ませる
聴くことで内的な対話が生まれ
他者の経験やまなざしによって回復に向かう

解決しないまま、助かっていく

相談支援が、その関係性がどれだけ暴力的で支配的だったか
日々のかかわりの中で、場が開かれ、問われ続けている

「助ける」支援より「助かる」文化を



トラウマの勉強会

天気の親の子の会

読書会と語り

一人で食べられない
若者たちの食事会

無数にできる
オープンチャット

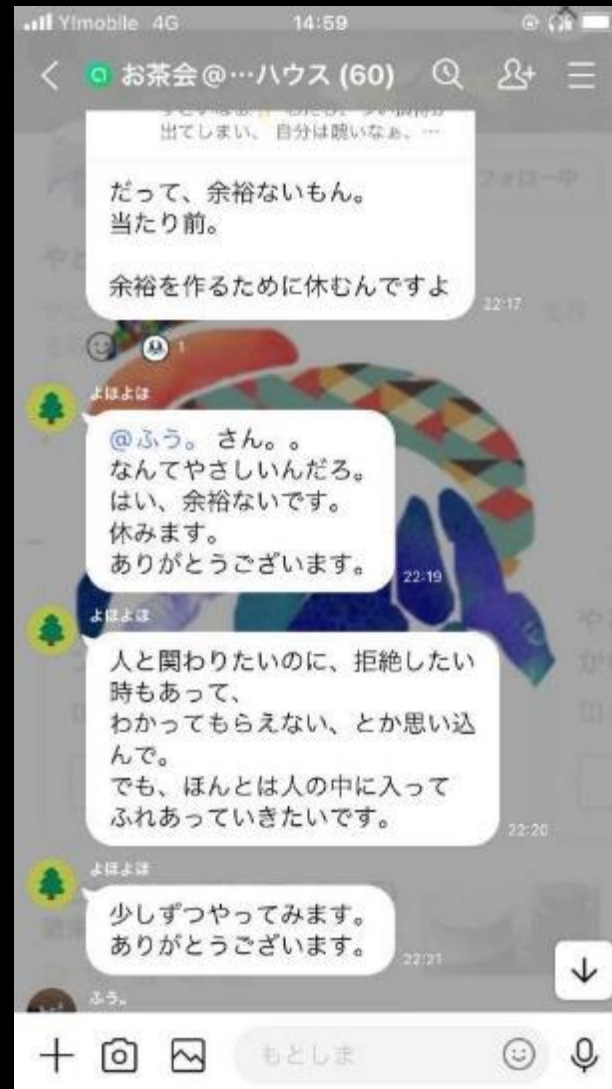
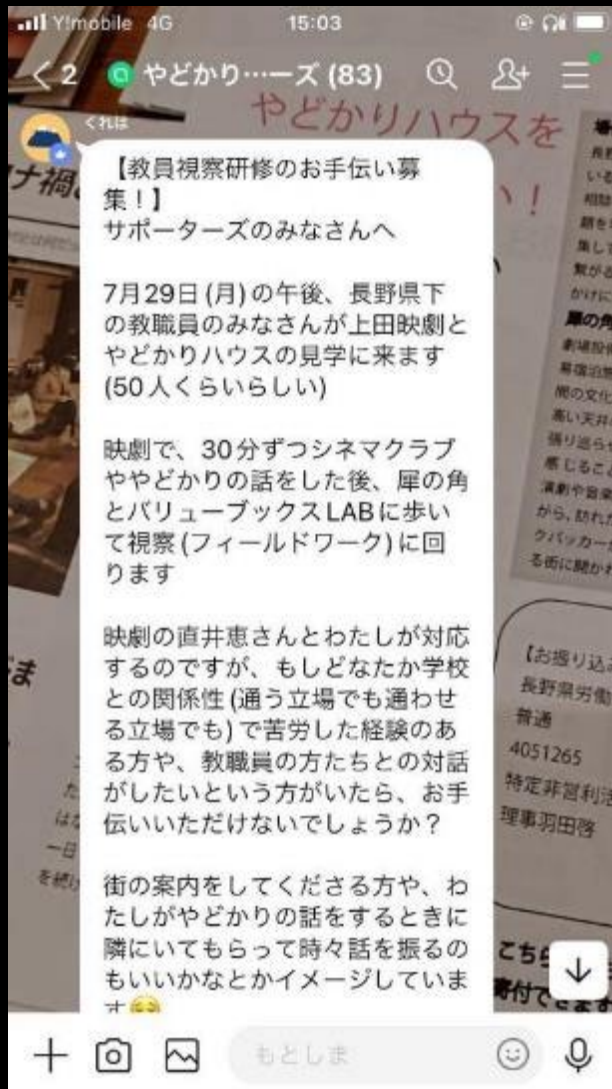
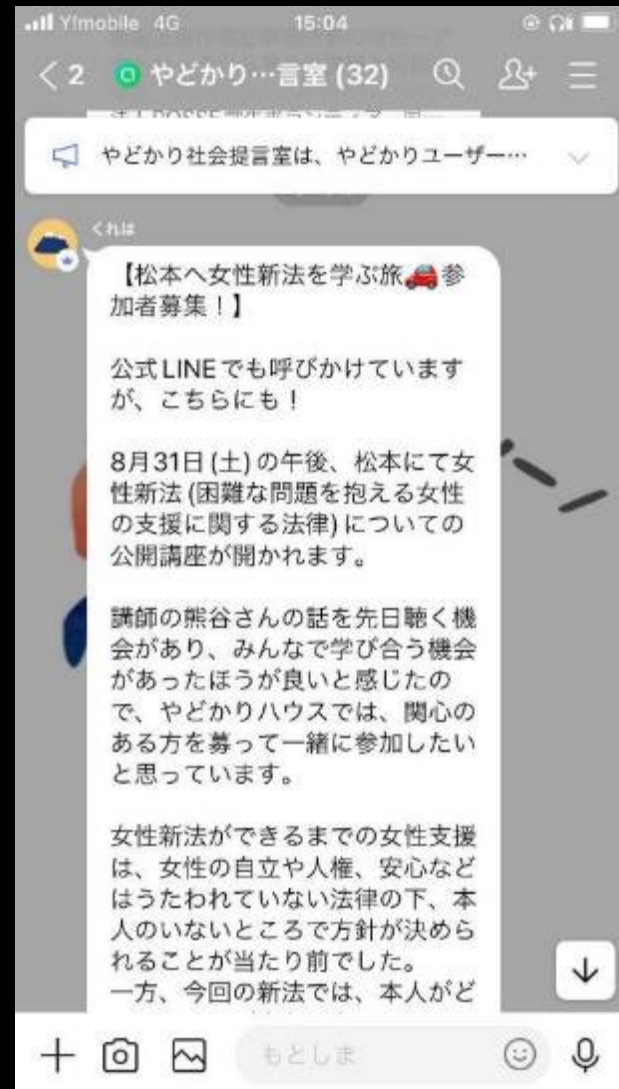
LINEオープンチャットで次々と生まれるコミュニティ

やどかり社会提言室 30名

やどかりサポーターズ 125名

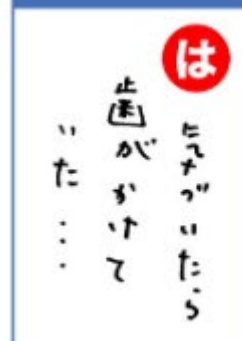
女性の自立のお茶会 88名

チャリティ企画班 41名





助からないを言葉にするとき
わたしたちは、
助からないまま助かっている





多様な背景がある若者や女性たちと
古本屋、映画館、劇場、農家などが出会う仕掛けを「のきた仕事事業」として
始め、**街中の地域資源や人々の
社会的インフラ化を進めています。**

のきた 仕事事業



「働く」ことに
ハードルがある人たちがいるって
初めて知りました。。！
安心して眠れる場所や人間関係が
「働く」のベースにあったのかぁ・・・
by古本屋店長





孤育て中の母親の社会参加の
機会&誰もが子を真ん中に
つながる場
「ジジバババンク！！」



食堂・屯で永久に食べれる “トンボラチケット” トンボのように軽やかに



街に困りごとを開いていく



街のケアが耕され、
劇場が家出先に 映画館が相談先に
本屋が表現の場に 民家が寝床や弁当屋に



障がいや生きづらさを 考える時の 新しいモデル

個人や社会が変わったところで、
わたしたちは助からなかった



医学モデル

「障害」を抱えた人に問題があり
問題を抱えた人が社会に合わせる努力を
強いられる

社会モデル

社会の側に「障害」がある
社会の側や環境を変えていこうとするモデル

関係性モデル

人々が繋がり、応答関係の持てる社会へと
場や在り方（会議や企画や繋がり方）を
デザインするモデル

助かり合うわたしたちへ

助ける「支援」より 助かる「文化」を

- 支援団体 ⇒ 市民活動
- 地域資源 ⇒ のきした
- シェルター ⇒ やどかり
- 相談、同行 ⇒ お話し、お供
- 支援被支援の関係 ⇒ 応答関係、助かり合うわたしたちへ
- 解決 = “正しく回っている社会からいなくなってほしい” という
メッセージ



制度は、ジャッジし、分断し、孤立化させるトラウマ体験と似ている
助からない仲間として連帯する、正解ではなく問いでつながる

劇場では常に 他者のまなざしを受ける

芝居を見る＝アシスタンス＝援助する

日常生活においては〈もしも〉は虚構だ。
演劇においては〈もしも〉は実験だ。

日常生活においては〈もしも〉は逃避だ。
演劇においては〈もしも〉は真実だ。

ピーター・ブルック著、高橋康也・喜志哲雄訳
『なにもない空間』（晶文社、1971年、206ページ）



街の駆け込み場やどかりハウスは、誰でも書き込める戯曲だった